

# 令和元年度 情報部 活動の方向

## 1 平成30年度の主な活動

<http://kokugo.chu.jp>

### A 「Web ぎふこくご」運営

- (1) 指導資料アーカイブ ～ カリキュラム・マネジメントの取り組み（研究部連携）
- (2) 「ぎふこくご」号外の編集と配信

### B 「NHK 杯全国中学校放送コンテスト」岐阜県事務局の運営

#### ● A (1) について

The collage consists of several key elements:

- Green Sidebar:** A vertical menu with categories like '授業資料はこちらより' (Lesson materials here), '平成30年度第2回代議員会' (2nd General Meeting), '平成30年度夏季研修会より' (Summer Workshop), 'ぎふこくご賞' (Gifu Kokugo Award), '平成29年度全国大会関連情報' (National Conference Info), '生徒向け' (For students), '先生向け' (For teachers), and 'あれこれ' (Miscellaneous).
- Forum Post Screenshot:** A snippet of a discussion with the text: 「どうしよう。明日の授業・・・。」 (What should I do. Tomorrow's lesson...). Below it, a red box highlights the text: 「すぐに実践資料が見たい→」 (I want to see practical materials right away →).
- Red Boxed List:** A list of activities with red boxes around them:
  - 話すこと・聞くこと (Speaking and Listening)
  - 書くこと(確かに書く) (Writing (definitely writing))
  - 書くこと(豊かに書く) (Writing (richly writing))
  - 読むこと(説明文) (Reading (explanatory text))
  - 読むこと(文学的文章) (Reading (literary text))
  - 伝統的な言語文化 (Traditional language and culture)
- Website Section List:** A list of website sections with red boxes around the first few:
  - 1 指導案 (Lesson plans)
  - 2 委員会提案ボード1 (Committee proposal board 1)
  - 3 委員会提案ボード2 (Committee proposal board 2)
  - 4 委員会提案資料1 (Committee proposal material 1)
  - 5 委員会提案資料2 (Committee proposal material 2)
  - 6 話し合い黒板 (Discussion blackboard)
- Document:** A document titled '第三学年 国語科学習指導案' (Third Year Japanese Language Education Plan). It contains detailed text about lesson plans and learning objectives.

- 課題 ① 配列の工夫その他、必要な資料を見つけやすく、アクセスしやすくすること
- ② 資料の絶対数の確保
- 飛騨大会への取り組みを機会に、研究部と連携して、指導資料の拡充を図りたい。

#### ● A (2) について (省略。7月30日発行済)

●Bについて

平成 30 年度第 35 回 NHK 杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会 参加状況

参加校 8 校 26 名

| 部 門 別   | 参加者数 | 参加校数 | 参 加 校 名       | 参加人数 |
|---------|------|------|---------------|------|
| アナウンス部門 | 4 名  | 3 校  | 美濃市立美濃中学校     | 3 名  |
|         |      |      | 美濃加茂市立西中学校    | 1 名  |
| 朗読部門    | 22 名 | 8 校  | 各務原市立桜丘中学校    | 10 名 |
|         |      |      | 美濃市立美濃中学校     | 3 名  |
|         |      |      | 高山市立日枝中学校     | 3 名  |
|         |      |      | 美濃加茂市立西中学校    | 2 名  |
|         |      |      | 恵那市立明智中学校     | 1 名  |
|         |      |      | 岐阜市立島中学校      | 1 名  |
|         |      |      | 多治見西高等学校附属中学校 | 1 名  |
|         |      |      | 羽島市立羽島中学校     | 1 名  |
| ラジオ番組部門 |      | 参加なし |               |      |
| テレビ番組部門 |      | 参加なし |               |      |

入賞者

| 氏名     | 学年 | 学校名           | 部門      | 表彰種別 | 備考       |
|--------|----|---------------|---------|------|----------|
| 丸山 愛未  | 3  | 美濃加茂市立西中学校    | アナウンス部門 | 最優秀賞 | 全国大会予選参加 |
| 加藤 祐樹  | 3  | 美濃市立美濃中学校     | アナウンス部門 | 優良賞  |          |
| 加納 里穂  | 3  | 美濃市立美濃中学校     | アナウンス部門 | 奨励賞  |          |
| 平野 慧   | 3  | 美濃市立美濃中学校     | アナウンス部門 | 奨励賞  |          |
| 鈴木 愛唯  | 3  | 恵那市立明智中学校     | 朗読部門    | 優秀賞  |          |
| 傍島 琴美  | 3  | 美濃加茂市立西中学校    | 朗読部門    | 優秀賞  |          |
| 佐藤 園子  | 3  | 美濃市立美濃中学校     | 朗読部門    | 奨励賞  |          |
| 村瀬 咲弥  | 2  | 多治見西高等学校附属中学校 | 朗読部門    | 奨励賞  |          |
| 萩本 なつめ | 3  | 各務原市立桜丘中学校    | 朗読部門    | 奨励賞  |          |

4年連続して、全国大会に代表を送ることができた。(美濃加茂市西中学校 アナウンス部門より)  
→ 結果は予選出場に留まる。

## 2 令和元年度の活動の方向

- (1) ぎふこくご号外発行(PDF)・配信 (編集は広報部で行う。代議員会終了直後に発行する。)
- (2) NHK 杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会運営
- (3) 国語科に生かせるコンピュータ活用の講習会開催
- (4) 研究部・編集部等の活動成果の掲載協力
- (5) 読み取りのまとめなど、生徒作品の拡充

| 2019 年度 第 36 回 NHK 杯全国中学校放送コンテストの予定 |                    |       |         |
|-------------------------------------|--------------------|-------|---------|
| ◆全国大会日程・会場                          |                    |       |         |
| 予選                                  | 2019年8月3日(土)、4日(日) | 非公開審査 |         |
| 決勝                                  | 2019年8月16日(金)      | 公開審査  | 千代田放送会館 |
| ◆岐阜県大会日程・会場 = 7月9日 NHK岐阜放送局(非公開)    |                    |       |         |



## IF関数で成績処理案づくり

私たちは、いちいちの学習活動で、その評価規準に照らして「A・B・C」をつけますが、その基準を数値として設定できれば、成績処理の手間は随分軽減されるはず。このとき役に立つのが、「IF関数」です。【IF文とも呼ばれます】

コンピュータで成績を処理するときには、「感覚」や「思い込み」を排除し、「数値化」（「資料化」）で行います。場合により数値化は難しいこともありますが、通知表に表すという目的は、要するに数値化です。教科や活動により、教師の鋭敏な「センサー」が数値化の拠り所となることは言うまでもありません。

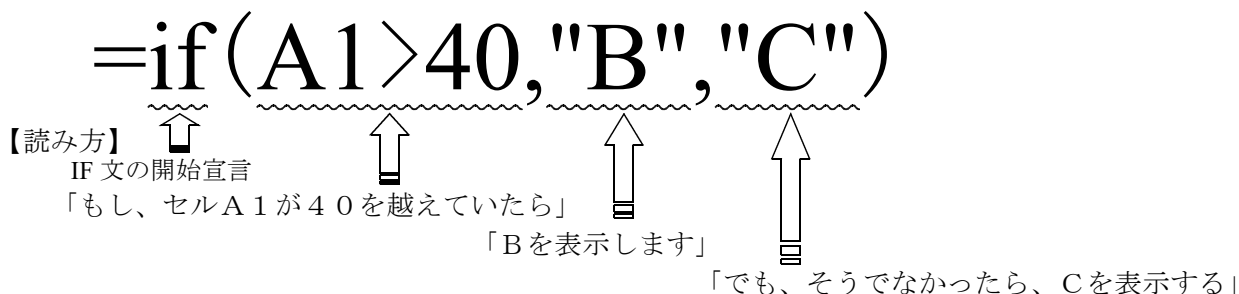
たとえば、基準の数値として、つぎのようなハードルを設定するとします。

### 40点を越えたら「B」、それ以下は「C」

これを処理してみましょう。

IF関数の構文は、次の通りです。

=if(判定条件, 真【条件が当てはまる場合の処理】, 偽【当てはまらない場合の処理】)  
ですから、先ほどの条件を式に表せば、



「B」ではなく、「"B"」とあるのは、文字列として扱うからです。Excelで関数の結果として文字列を表示させたいときには、このようにダブルクォーテーションでくくります。ダブルクォーテーションは、「Shift」を押しながら「2」キーを押すと出てきます。

- 
- =if(A1>40,B,C)                      この場合は、エラーになります。
  - =if(A1>40,20,10)                    エラーではありません。結果は、「数値」として表示されます。
  - =if(A1>40,"20","10")               エラーではありませんが、結果は「文字列」として表示されます。
- 

見た目は同じでも、数値かそうでないかは重要です。数値には大きさがあり、比較・演算ができますが、文字列はそういうわけにはいきません。出された結果をもとにさらに演算がしたい場合は、ダブルクォーテーションは外しておきましょう。

## IF文のネスト

=if(A1>40,"B","C")だけでは、実際には使い物になりません。条件は1つではないからです。AとBとCに分岐させるためには、IF文を入れ子構造にします。読んでみて下さい。

(例) =if(A1>80,"A",if(A1>40,"B","C")) ← 線部が「偽」の処理ですね

### 「絶対参照」 「相対参照」 って、何よ？

絶対参照と相対参照を区別することは、Excel の操作において大きな課題です。これを理解することで作業が格段に楽になるからです。

情報担当は、この二つを次のように理解しています。

絶対参照……世界地図

相対参照……コマ地図 (ほら、ウォークラリーで使うあれです)

「絶対参照」の場合、対象とするセルの番地は左上隅の「A1」を起点に考えます。ですから、「B1」とは、「B列1行」であると一意に決まります。「北緯 35 度 24 分 47 秒 東経 136 度 46 分 43 秒」の地点が、世界のどこから見ても梅林中学校であるのと同じです。

これに対し、「まっすぐ行って、二つ目の交差点を左、その後すぐ右に曲がると岐阜駅です」という表現は、今いる地点から見た説明であって、遠方の人が実行しても岐阜駅に行き着くことはありません。さて、このような見方を「相対参照」といいます。ほら、コマ地図みたいですね。

Excel では、この二つを「\$」の有無で区別します。番地は、「列と行」の形で表記されますから、「A1」は、絶対参照では「\$A\$1」と表します。

「行だけ絶対参照したい」  
「列だけ絶対参照したい」  
という要求にも Excel は答えていますが、それについてはまたいずれ。

### 違いは「コピー」のときに出る



|   | A    | B  | C  | D  | E           |
|---|------|----|----|----|-------------|
| 1 |      | 国語 | 社会 | 数学 | 合計(相対)      |
| 2 | 堀場くん | 33 | 55 | 44 | =SUM(B2:D2) |
| 3 | 相原くん | 21 | 32 | 98 |             |
| 4 | 田中さん | 56 | 76 | 32 |             |
| 5 | 泉野さん | 43 | 45 | 67 |             |

この二つの表記の違いを SUM 関数で確認しましょう。SUM 関数は「合計を求める」関数としておなじみですね。

左の表で、堀場くんの合計点を求めるため、セル E2 に「=SUM(B2:D2)」という関数が納められています。そう、「B2 から D2 までの合計値を

#### そのセルで、「F2」を押せ

納められた関数を確認するには、キーボードの上方のファンクションキーから「F2」キーを押します。参照セルも色を変えて枠表示されるので、大変わかりやすいですよ。

示せ」という命令ですね。

ミスター Excel はこれをコマ地図的に解釈し、「今いるこのセルから見て、左3個目から左1個目までを合計する」と考えます。相対参照とは、こういうことなのです。

|   | A    | B  | C  | D  | E           |
|---|------|----|----|----|-------------|
| 1 |      | 国語 | 社会 | 数学 | 合計(相対)      |
| 2 | 堀場くん | 33 | 55 | 44 | 132         |
| 3 | 相原くん | 21 | 32 | 98 | 151         |
| 4 | 田中さん | 56 | 76 | 32 | 164         |
| 5 | 泉野さん | 43 | 45 | 67 | =SUM(B5:D5) |

この式を下方にコピーしたのが、左の結果です。最下段、泉野さんの合計点が「=SUM(B5:D5)」で求められています。

コピー元の E2 が「B2 から D2」の参照だったのに、E5 は、「B5 から D5」の参照に変わっています。しかし、元々が相対参照だったので、コピーしても相対参照のままです。見た目は変わっていますが、命令そのものは、「このセルから見て、左3個目から左1個目までを合計する」であり、そこに違いはありません。

### レゾン・デートル

これに対し、絶対参照の場合は、「今いるセルから見て」ではなく、「A1 を起点として」と考えるため、E2 の数式は「=SUM(\$B\$2:\$D\$2)」となります。コピーを行っても参照先は固定され、数式も同じ「=SUM(\$B\$2:\$D\$2)」です。これでは使い物になりませんね。でも、「VLOOKUP 関数」など、複数の箇所を参照する関数では、絶対参照がないと困るのです。判定の基準となるセル群がコピーのたびに移動してくれては、それこそ使い物になりません。なるほど、やはり「存在理由」があるのですね。

|   | A    | B  | C  | D  | E                   |
|---|------|----|----|----|---------------------|
| 1 |      | 国語 | 社会 | 数学 | 合計(相対)              |
| 2 | 堀場くん | 33 | 55 | 44 | 132                 |
| 3 | 相原くん | 21 | 32 | 98 | 132                 |
| 4 | 田中さん | 56 | 76 | 32 | 132                 |
| 5 | 泉野さん | 43 | 45 | 67 | =SUM(\$B\$2:\$D\$2) |
| 6 |      |    |    |    |                     |

小紙はコンピュータや情報教育に関わって、学校教職員向けに情報発信をしようというものです。中には覚えておいた方が良さなものも混じっていますので、必要と思われる方は、身につけることをお勧めします。(強くお勧めします。)

## キーを組み合わせ、「楽」をしよう

## 全部覚えましょう(!?)

| 便利な「コントロール」キー (＝キーボードの「Ctrl」キー) |                                                                                                    |                  |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <b>Ctrl</b> + <b>A</b>          | すべてを選択状態にする。<br>(例)エクセルで、表の中のすべてを削除したい場合<br><b>Ctrl</b> + <b>A</b> 、続いて <b>Delete</b> 。一太郎などでも同じ。  | <b>All</b>       |
| <b>Ctrl</b> + <b>C</b>          | 選択部分のコピーを行う。(メモリに入る)                                                                               | <b>Copy</b>      |
| <b>Ctrl</b> + <b>X</b>          | 切り取り操作                                                                                             | <b>X</b> はさみの形   |
| <b>Ctrl</b> + <b>V</b>          | コピー内容をカーソル位置に貼り付ける。(メモリから貼り付ける)                                                                    |                  |
| <b>Ctrl</b> + <b>Z</b>          | 元の状態に戻す。<br>戻れる回数はアプリケーションごとに設定されているが、一太郎の場合、初期状態で、50回の取り消しができるようになっている。「あー、しまったあ」の時に、一番頼りになるキー操作。 | <b>Zenkai</b>    |
| <b>Ctrl</b> + <b>D</b>          | エクセルでは、上のセルの内容をコピーして貼り付ける。                                                                         | <b>Down</b>      |
| <b>Ctrl</b> + <b>R</b>          | エクセルでは、左のセルの内容をコピーして貼り付ける。                                                                         | <b>Right</b>     |
| <b>Ctrl</b> + <b>F</b>          | 多くのアプリで、「検索の実行」                                                                                    | <b>Find</b>      |
| <b>Ctrl</b> + <b>H</b>          | 多くのアプリで、「置換の実行」                                                                                    | <b>Henkan</b>    |
| <b>Ctrl</b> + <b>N</b>          | 新しいファイルの作成                                                                                         | <b>New</b>       |
| <b>Ctrl</b> + <b>O</b>          | ファイルを開く。                                                                                           | <b>Open</b>      |
| <b>Ctrl</b> + <b>P</b>          | プリントアウトの設定。<br>通常は、この後、 <b>Enter</b> を押せば、直ちに印刷実行                                                  | <b>Print</b>     |
| <b>Ctrl</b> + <b>S</b>          | 上書き保存                                                                                              | <b>Save</b>      |
| <b>Ctrl</b> + <b>B</b>          | 選択部分を太字にする                                                                                         | <b>Bold</b>      |
| <b>Ctrl</b> + <b>U</b>          | 選択部分にアンダーラインを入れる                                                                                   | <b>Underline</b> |
| <b>Ctrl</b> + <b>Home</b>       | 文書の頭へ移動                                                                                            |                  |
| <b>Ctrl</b> + <b>End</b>        | 文書末へ移動                                                                                             |                  |
| <b>Ctrl</b> + <b>1</b>          | エクセルでは、セルの書式設定                                                                                     |                  |
| <b>Ctrl</b> + <b>2</b>          | 一太郎では、名前をつけて保存                                                                                     |                  |